

3月のセシウム飛散推計公表～岩手から静岡まで幅広く | TheNews

<白石草>

独立行政法人日本原子力研究開発機構は、9月6日、放射性物質が大量に放出した3月に、日々のどのようなプロセスで、関東及び東北地方にセシウム137が降下したのかを明らかにするための試算を行い、解析結果を公表した。

データは、世界版SPEEDIや気象庁アメダス、福島第一原発モニタリングカーなどを利用してセシウム137の降下と積算沈着を予測、解析したもの。

セシウムの降下のプロセス

左図:1号機の水素爆発の頃に一時的に放出が増加と推定された放射性物質が、12日午後から深夜にサイト北北西方向から宮城沿岸部に拡散・沈着した。

右図:14日中は北東の海上へ拡散した後、時計回りに向きを変えて14日夜間から15日朝にかけて南南西の茨城県方向に拡散した。

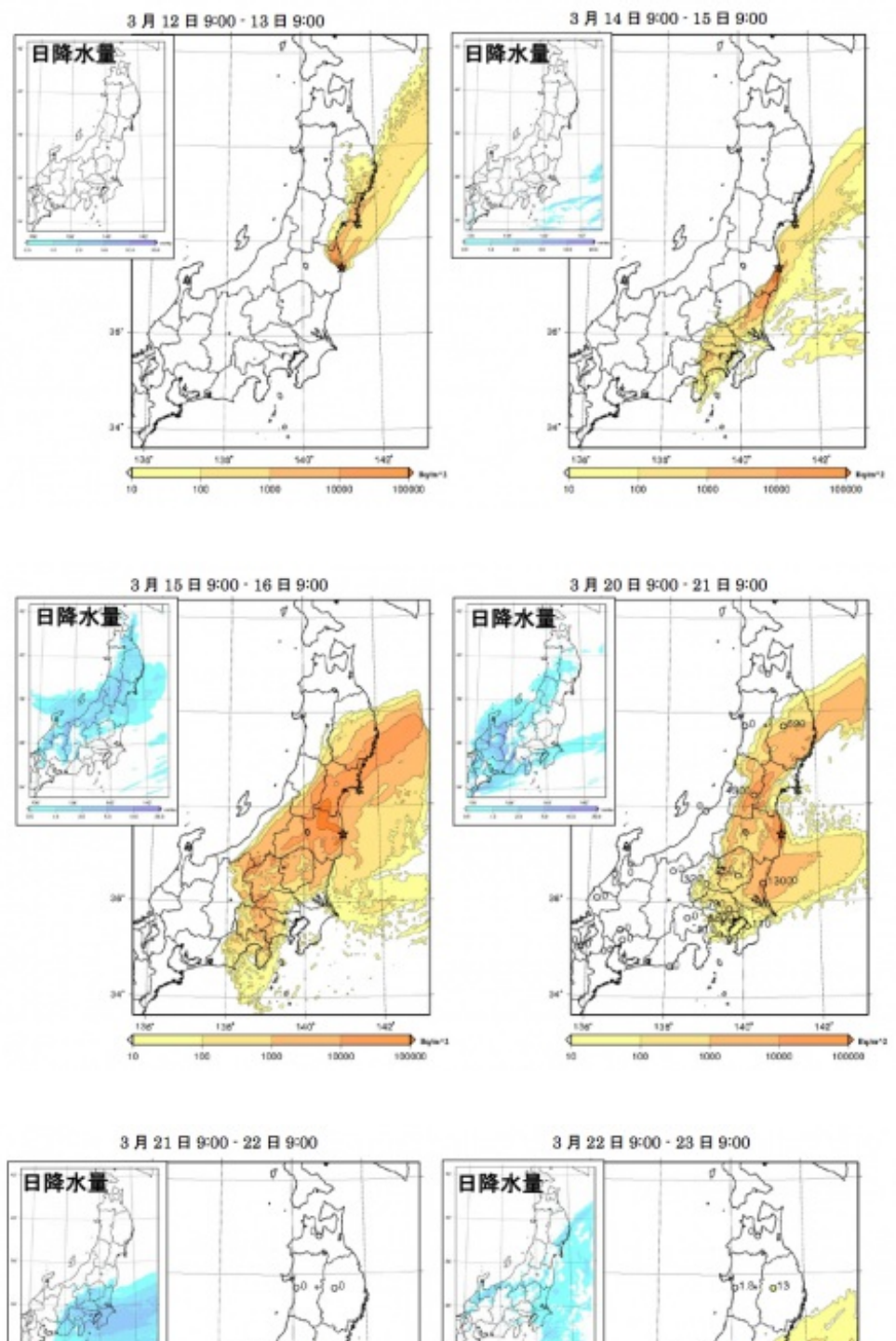
左図:南南西方向から時計回りに向きを変えながら関東、東北へ拡散。高降下量地域は、主に2号機の圧力抑制室付近の爆発音以降に放出が増加したと推定される。また降雨によって、土壤に沈着したと考えられる。(福島市周辺及び宮城では予測結果は過大評価)

右図:20日の昼までは関東に拡散した後、北西方向へ拡散し、深夜から再び南西の関東方向に拡散。関東地方では20日夜までの乾性沈着と21日朝からの湿性沈着に起因して降下量が増加した。福島県東部は乾性沈着、宮城、山形及び岩手県では湿性沈着に起因した降下量の増加がある。

左図: 関東地方全域に拡散し、降雨による湿性沈着で降下量が増加した。

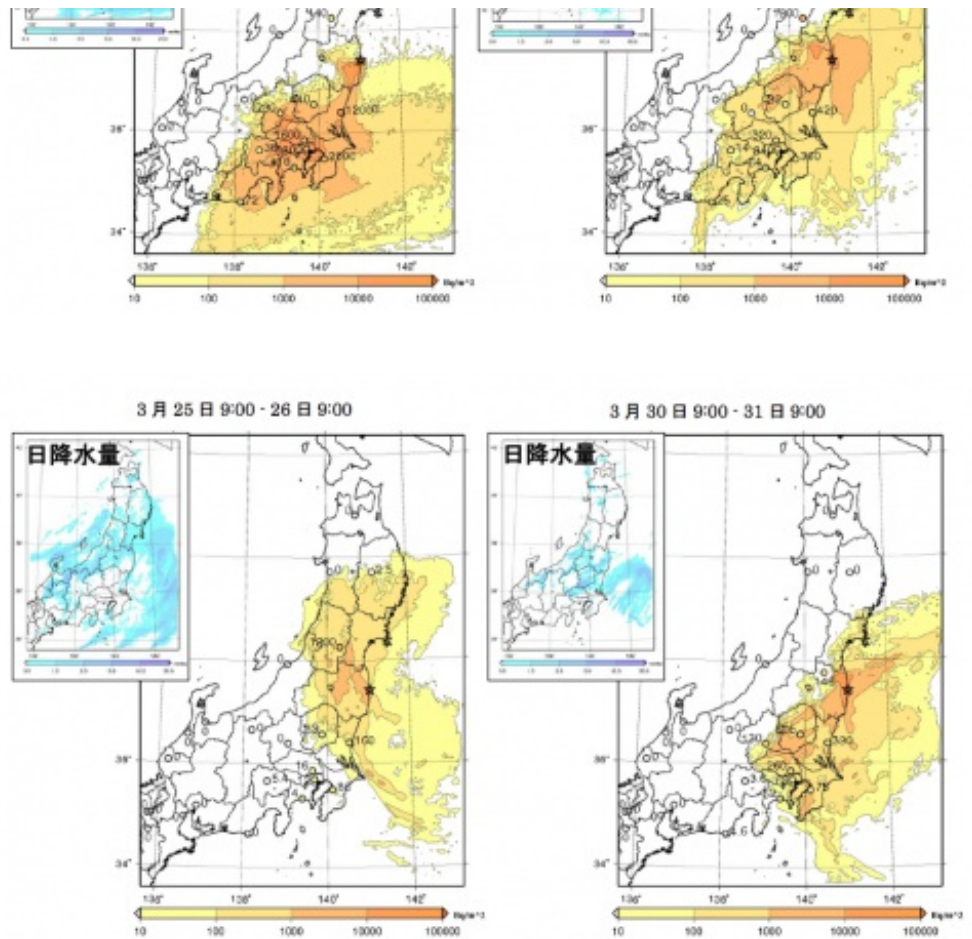
右図:22日中は福島県、栃木県に拡散し、23日朝は海上へ拡散。降雨による湿性沈着で降下量が増加した。

左図: 海上からサイト北西方向に拡散した後、南東方向へと反時計周りに向きを変えながら拡散し、降雨によって



山形・福島・宮城県の県境を中心に湿性沈着による降水量の増加があった。
 右図：太平洋上から内陸へと拡散し、福島・栃木県を通過中に降雨によって降下した。千葉県での過大評価は、降水量の計算値の過大評価に起因する。なお、3月30日のみ、文部科学省の「都道府県別環境放射能水準調査結果」と整合性をとるため、放出率を調整している。

福島第一原子力発電所事故に伴う Cs137 の大気降下状況の試算
 - 世界版 SPEEDI(WSPEEDI)を用いたシミュレーション -



<http://nsed.jaea.go.jp/fukushima/data/20110906.pdf>

« [経産省前で若者4人がハンスト～脱原発訴え](#) ←前の記事

次の記事⇒